

3-7

演題	人材確保に繋がるかもしれない妄想と考察
副題	

人材不足
施設内共助

法人名	社会福祉法人 青芳会・久寿会
施設名	青根苑・中の郷

発表者名 (職種)	内藤 篤 相談員
共同発表者	高橋 大助
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	相模原市緑区青根 1728-1
TEL	042-787-8230
FAX	042-787-8232
メールアドレス	aoneen@aoneen.jp
URL	https://seihou-kai.jp ・ https://nakanogou.org

今回の発表施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム青根苑は 40 床の従来型と 80 床のユニット型の混在している施設です。 特別養護老人ホーム中の郷は特養従来型、ユニット型のほかにグループホーム、デイサービス、居宅、地域包括などの複合型の施設になります。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

人材不足が深刻化している中、新たな人材の確保する方法を思案した末、もし利用者が働いてくれたとしたらという発想から、具体的にこの様に制度を変えていけば実現できるのではないかとこの考察を行った。

取り組んだ課題

新たな働き手として施設利用者に手伝ってもらったかどうかという発想から、実際に実現するにあたっての問題点とそれに対してどのような制度や体制が必要なのかを考察した。

具体的な取り組み

制度的な問題は保留し、常識にとらわれず自由な発想で出てきたアイデアについて真剣に考察した。
施設利用者を働き手として考えるうえで、適切な人材像や役割、費用について具体的に計算し可能かどうかを検討した。

活動の成果と評価

人材不足に関しては年々深刻な状況にあり、働き手をどこから確保していくのかが大きな課題となっている。今回は非現実的な発想を真剣に考えることで条件がそろえば実現できるのではないかとこのころまで考えることができた。

今後の課題

今後の人口の動向や社会的な環境から介護業界では慢性的な人材不足に陥り、他業種との人材確保のための競争にも決定的に有意な状況とはならない為、業務の IT 化や新たな人材の開拓が絶対的に必要となってくる。
その中で元気なお年寄りに力をお借りし現在働いている職員の業務負担を軽減することが重要となってくる。
介護保険が施行される前には入居されている元気なお年寄りが他の入居者に対していろいろと世話や相談相手になっている姿がよく見られていたが、現行の介護度 3 以上でないの特養入居ができなくなって

からは、その姿は見られず医療依存度が高くなりより介護の困難な入居者が増え、介護従事者の負担が一層増したように感じる。
もちろん介護のプロフェッショナルとしての能力向上と専門的な知識、根拠に基づいた介護等必要不可欠となるが数的な不足に関しては個々の能力では補いきれない状況にある。
今回新たな方法の一案として入居者の力を借りることができたらどうなのかということ考察してみたが、改めてたくさんの人の手が必要な中で、施設中の「共助」というキーワードについて真剣に考えていきたい。